

第 77 回指定都市学校保健協議会

標記協議会が令和 8 年 7 月 19 日（日）午前 9:30 より、川崎市産業振興会館、川崎市本庁舎にて開催され、山田会長、佐藤担当理事、大川委員長が出向しました。

午前中は全体協議の後、「自分の可能性を求めて」と題し、車いすラグビー金メダリストの羽賀 理之 氏を講師として記念講演が行われました。会社の同僚で同じく車いすラグビー選手の二人とともに実演を交えた迫力満点の講演となりました。大きな壁にぶつかっても希望を持って前向きに生きることの大切さが語られました。

午後からは会場を川崎市本庁舎に移し、ポスターセッションに関するレクチャーの後、4 つの会議室に別れてポスターセッションが行われました。今回は歯科に関する発表はありませんでしたが、主題「多様性を尊重する中で、夢や希望を抱き、自ら行動する力を育む学校保健の推進」に沿った 20 題の発表が順番に行われ、それぞれ活発な質疑応答が行われていました。

札幌市からは「目を大切にする子どもたちの育成を目指して～眼科医と連携した近視予防の実践を通して～」と題し、札幌市立平岡南小学校教諭 三浦 直樹 先生の発表がありました。



第 77 回指定都市学校保健協議会 前日歯科保健協議会

指定都市学校保健協議会の前日、7 月 18 日（土）午後 3:00 より標記協議会が鶴見医師歯科医師会館にて開催され、札幌市、仙台市、千葉市、相模原市、浜松市、名古屋市、大阪市、堺市、神戸市、岡山市、北九州市、福岡市、横浜市の 13 都市の歯科医師会もしくは学校歯科医会から 40 名が参加しました。川崎市歯科医師会がこの協議会に不参加のため、今回は横浜市歯科医師会の代理主催となりました。

来賓挨拶では日本学校歯科医会の柘植会長が、大都市における諸課題を協議、情報交換するこの協議会は大変意味があると述べられました。

協議ではまず各都市からの令和 7 年度の事業について報告が行われ、次に、事前に各都市から出された多くの協議題について、事前回答をもとに協議が行われました。

「不登校等により学校歯科健康診断未受検の児童生徒への対応」では、札幌市のように未対応の都市がある一方、学校歯科医の診療所で無料で行う、市内の診療所で別料金で行うなど各都市で様々な対応が見られました。

「フッ化物応用事業への取り組み」では、反対運動などでなかなか進んでいなかった各都市ですが、徐々にではあるが進み始めている所が多くなってきたようです。神戸市では教職員の負担軽減のため、希望者にフッ化物洗口液を配付して家庭でフッ化物洗口を行ってもらおうという特殊な方法をとっているとのことで、その利点、欠点等について興味津々で質疑応答が行われました。

最後に日学歯の柘植会長より各議題に対する講評が行われました。フッ化物洗口や口腔機能発達不全に対する学校歯科医の役割のほか、5 歳児健診や国民皆歯科健診についても言及されました。